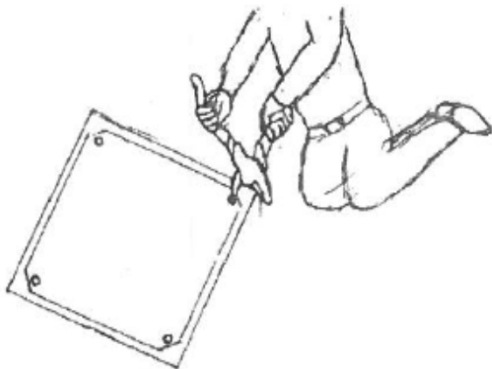


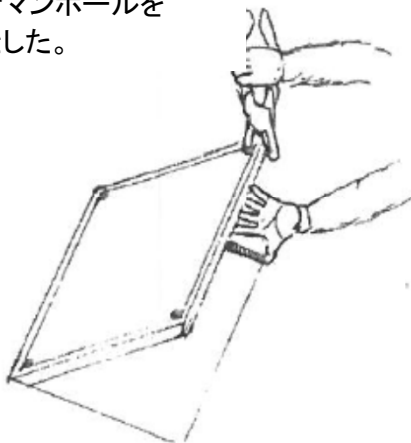
発生日時	平成 25 年 4 月 9 日 (火)				8 時 50 分	天候	晴
工事情報	営繕事務所 暖冷房衛生設備工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	38	計装工	左環指指先損傷			
事故概要	ピット作業時、マンホールを開けるため、プライヤーにてふたを持ち上げた際、プライヤーが滑り、ふたが落ちて、左手薬指を挟み負傷したもの。 労働災害事故一部材の加工作業等により自らを負傷						

事故発生状況

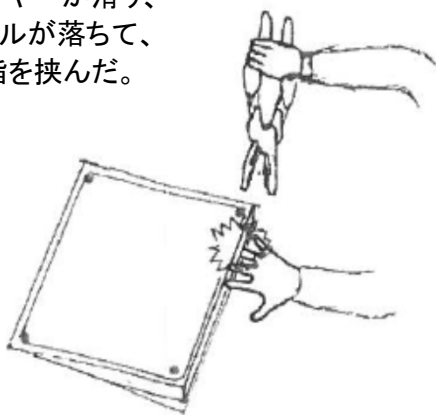
1. プライヤーを使用してマンホールを持ち上げた。



2. 左手でマンホールを支えようとした。



3. プライヤーが滑り、マンホールが落ちて、左手薬指を挟んだ。



・ピット作業を行うため、マンホールを開けようとしていた。

・マンホールを開ける際、専用の工具を使用して開けることになっていたが、携帯していたプライヤーで開けようとした。

・プライヤーでマンホールのふたを持ち上げて、左手で支えようとしたところ、プライヤーで挟んでいる部分が滑り、ふたが落ちて、左手薬指を挟んで負傷したものの。

・マンホール開閉用の専用工具は、準備してあった。(作業員が取りに行かなかった。)

【事故発生原因】

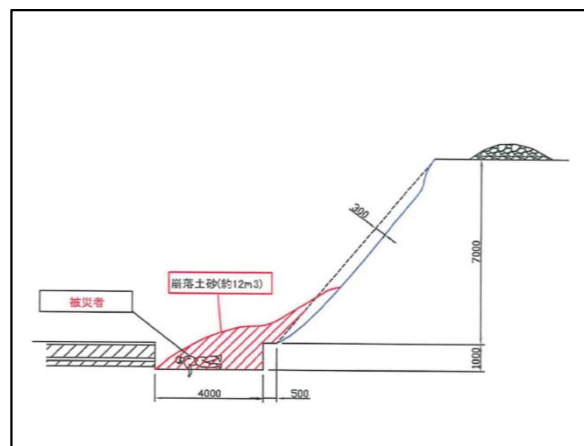
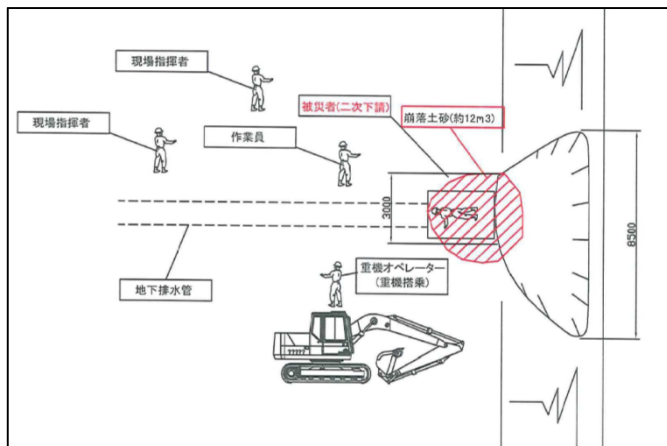
・作業手順の周知・徹底が不十分であったため。
など

【事故防止のポイント】

・専用工具を使用して作業を行うよう、施工計画・作業手順の周知・徹底を十分に行う。
など

発生日時	平成 25 年 6 月 8 日 (土)				10 時 50 分	天候	晴
工事情報	道路事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	45	普通作業員	死亡			
事故概要	掘削完了箇所にて、地下排水溝の設置作業中、掘削法面が崩落し、作業員が生き埋めとなり、後に死亡が確認されたもの。						
	労働災害－その他労働災害						

事故発生状況



・被災者を含む計3名の作業員で、掘削完了箇所の切土法尻部において、地下排水工の設置作業を実施。

・管路部の掘削完了後、基礎碎石を投入するために床堀作業が完了した作業員3名に退避するよう指示があり、2名が退避し、残り1名が退避しようとした際に、法面が崩落。作業員1名が生き埋めとなった。

・約15分後、救出され、意識不明の状態であったが、その後容態が急変し、死亡した。

【事故発生原因】

・作業中の法面点検を行わずに作業を実施したため、危険予知ができていなかった。 など

【事故防止のポイント】

・法尻で作業をする際は、直上の法面をネットにて防護し、監視員による法面の挙動監視を行う。 など

発生日時	平成 25 年 6 月 17 日 (月) 11 時 0 分					天候	晴
工事情報	河川事務所 測量業務						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	52	－	右肘切り傷(全治2週間)			
事故概要	測量作業中、作業員が足を滑らせて転倒し、負傷したもの。 労働災害－準備作業、測量調査業務等における人身事故						

事故発生状況



- ・測量業務の作業中、作業員が流路を横断しようとして、足を滑らせた。
- ・流路には水が若干流れており、滑りやすくなっていた。
- ・流路の傾斜角は約30度あり、約70m滑落した。
- ・測量作業は、一人で実施していた。

【事故発生原因】

- ・危険な箇所での作業の安全対策の周知・徹底不足
など

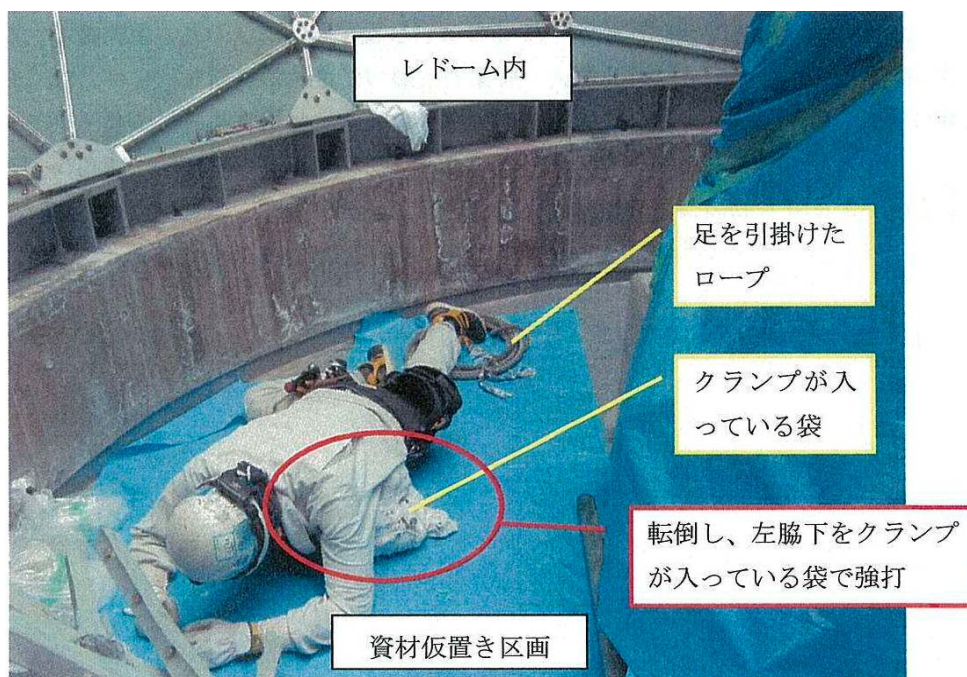
【事故防止のポイント】

- ・危険な箇所で作業を実施する際は、複数人で作業を実施する。
など

別紙

発生日時	平成 25 年 6 月 29 日 (土)				天候	晴
工事情報	本局 電気通信設備製造					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	65	電気通信技術者	左脇下肋骨骨折		
事故概要	レドーム内でレーダ解体作業中に、現場の床に置いてあったロープに作業員が躓き転倒し、負傷したもの。					
	労働災害－その他労働災害					

事故発生状況



・レドーム内でレーダの解体作業を行っている最中に、資材仮置き区画の床面においていたロープに躓き、足場用クランプが入っている袋に左脇の下を強打し、肋骨を骨折した。

・資材置場と作業通路の区画が明確に区別されていなかった。

【事故発生原因】

・資材置場と作業通路の区別がされていなかった。 など

【事故防止のポイント】

・作業通路には資材等は置かずに、現場の整理整頓を行う。 など

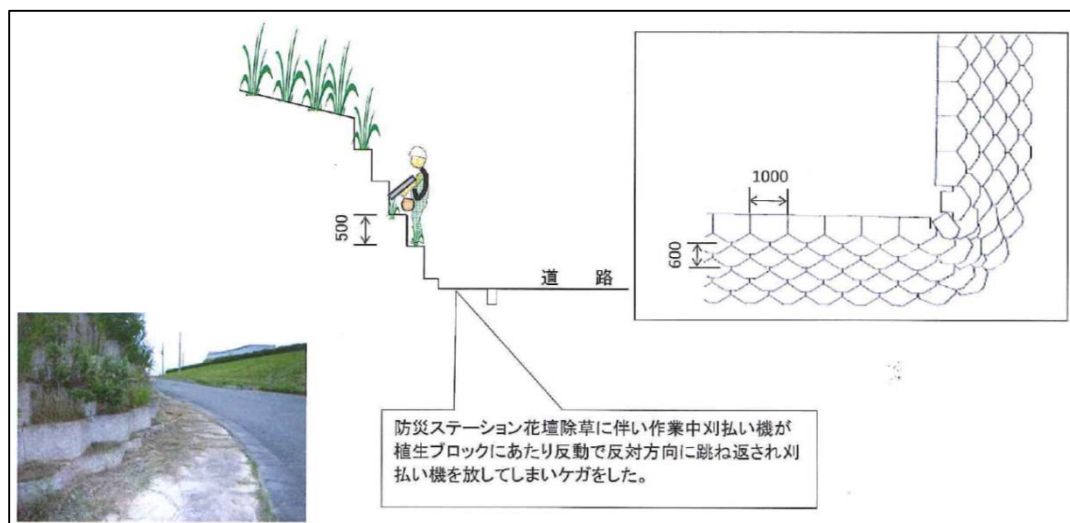
発生日時	平成 25 年 7 月 2 日 (火)					8 時 45 分	天候	晴
工事情報	河川事務所 維持修繕工事							
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度				
	男	78	土工	左大腿切創、筋損傷				
事故概要	肩掛式除草機で除草作業中に、作業員が除草機で足を負傷したもの。							
	労働災害一部材の加工作業等により自らを負傷							

事故発生状況

現場状況



現場状況



・堤防除草工に伴い、植生ブロックの2段目を刈ろうとした際、刈払機の刃を水平にしようと思い、肩掛けバンドから刈払機をはずして作業を始めた。

・作業中に蜂が飛来したため、よけようとした際、誤って植生ブロックに刈払機の刃が接触し、その反動で左足太ももを裂傷した。

【事故発生原因】

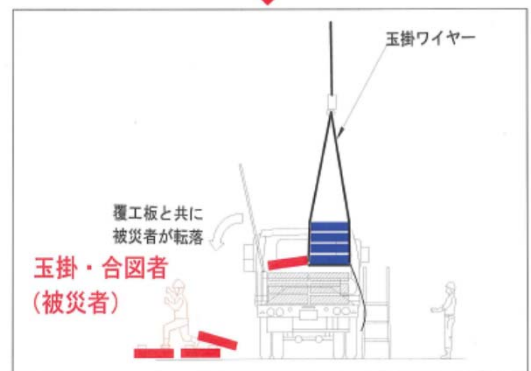
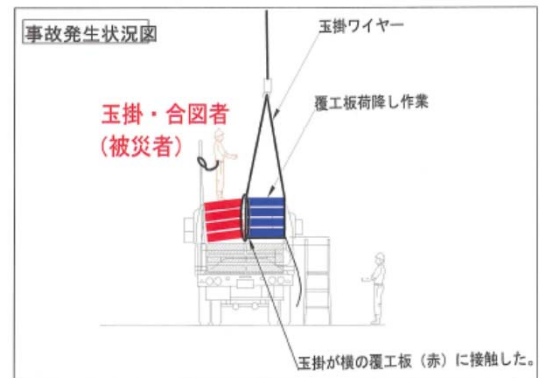
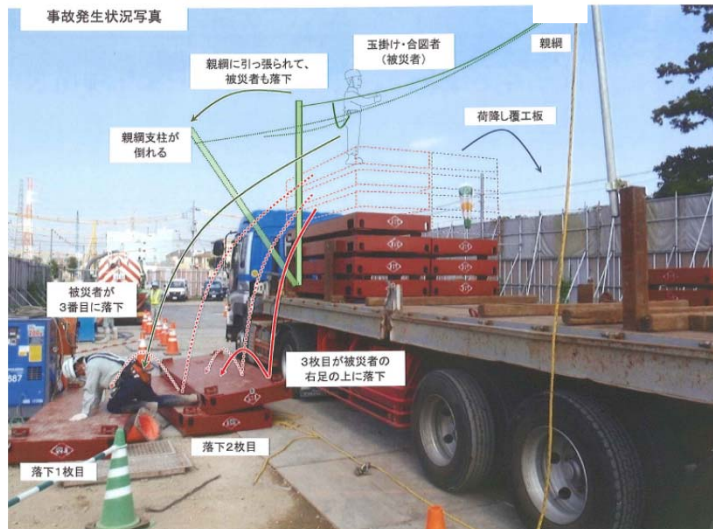
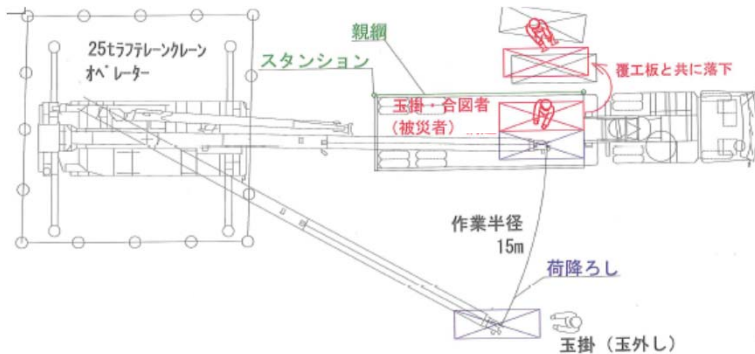
・植生ブロック上の作業を行う上で、安全な作業手順の周知・徹底が行われていない。 など

【事故防止のポイント】

・作業前やKY活動時に安全な作業手順の周知・徹底を行う。 など

発生日時	平成 25 年 8 月 12 日 (月)				9 時 40 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	35	とび工	右足腓骨骨折、左足踵骨骨折			
事故概要	覆工板の荷下ろし作業中、覆工板が荷くずれを起こして荷台から落下。その上にいた玉掛け作業員も一緒に荷台から落下し、遅れて落下してきた覆工板と作業員の足が接触、負傷したもの。						
	労働災害－運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷						

事故発生状況



【事故発生原因】

- ・荷を吊り上げる時、積荷の覆工板上から退避せずに合図作業を行っていたなど

【事故防止のポイント】

- ・合図者は、吊り荷がよく見え、オペレーターからもよく見える位置で、かつ、作業範囲外に位置して合図を行うことを徹底する。など

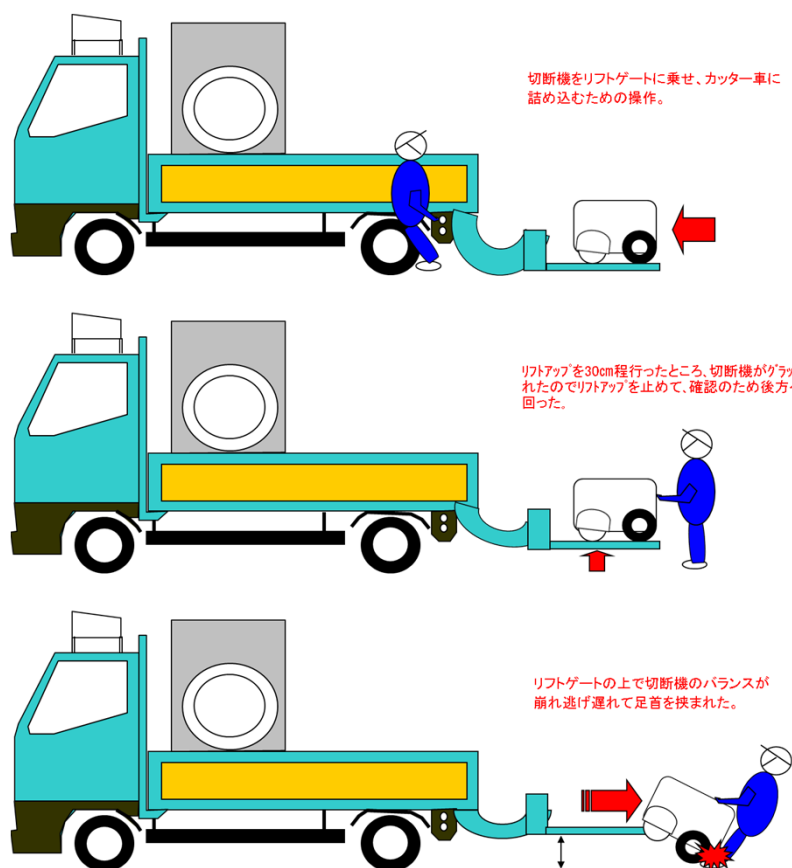
・覆工板荷降ろし作業中、被災者は隣接の覆工板積荷上で合図を行っていた。(玉掛け者兼合図者)

・覆工板(4枚分)を吊り上げ中にワイヤーのシャックルが被災者が載った隣接の覆工板(上から4枚目)に引っかかっていたが、気づかずに巻き上げたため、浮き上がった覆工板の上2枚が滑り落ち、被災者がかけていた親綱支柱が倒れ、被災者も親綱に引っ張られるように落下し、左足踵骨を負傷した。

・そこへもう一枚が被災者の右足の上に落下し、右足腓骨を負傷した。

発生日時	平成 25 年 9 月 11 日 (水) 22 時 20 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	65	カッター工	両足首打撲・骨折		
事故概要	舗装面の切断作業を完了し、切断機を収容しようとリフトゲートに切断機を載せてリフトを上げている最中にバランスが崩れ、後方にいた作業員の両足首が挟まれ、負傷したもの。					
	労働災害－運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷					

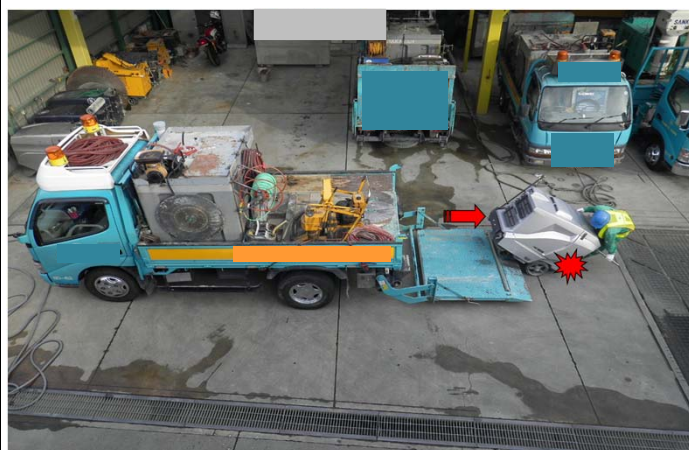
事故発生状況



・橋梁補修工事において、上り車線側舗装面の切断作業を完了し、下り車線側舗装面の切断を行うために切断機を収納しようとしてリフトゲートに切断機を載せてリフトを上げた。

・30cm程度リフトを上昇させたところで、切断機のバランスが崩れ、ぐらっと揺れたため、リフトアップを中断し、確認のため後部へ回ったところ、被災者の足首へ切断機が落下した。

・リフトゲートに積み込み時にカッターのブレーキをかけ忘れていた。



【事故発生原因】

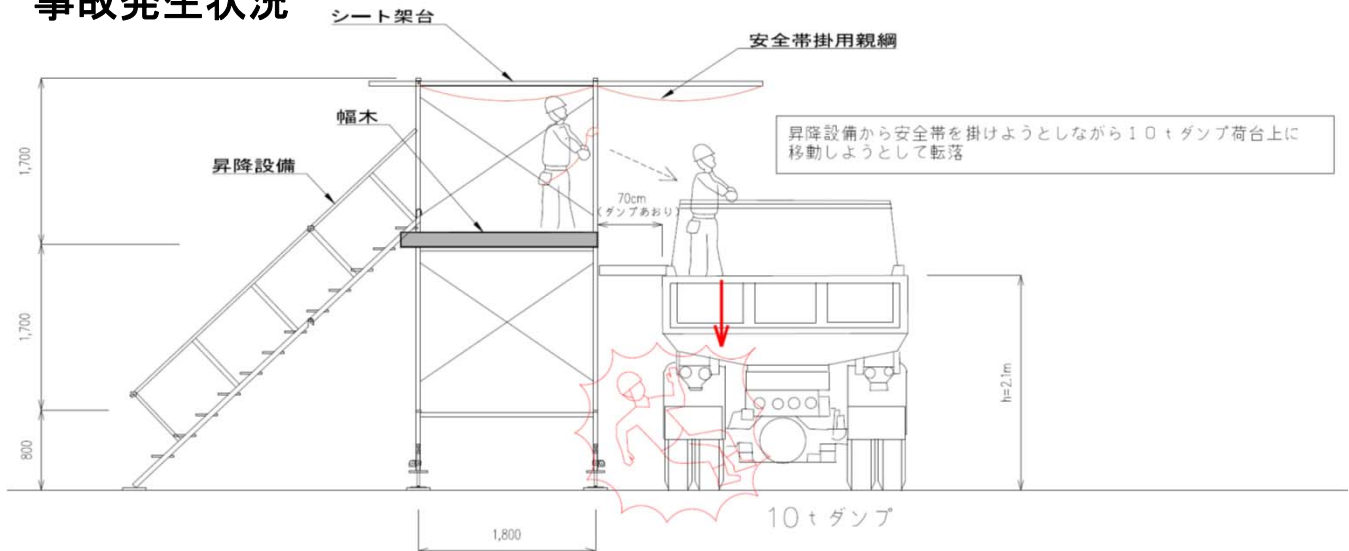
- ・作業手順書の周知・徹底不足。
など

【事故防止のポイント】

- ・機械の安全な使用方法を作業員に周知・徹底する。
など

発生日時	平成 25 年 9 月 25 日 (水) 15 時 35 分					天候	雨
工事情報	道路系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	59	土工	骨盤骨折			
事故概要	残土仮置場において、ダンプのシートを外すため、架台からトラック荷台に移動したところ、安全帯をかけ替えていた途中に足を滑らせて落下したものの。						
	労働災害－その他労働災害						

事故発生状況



・現場の床掘土をダンプに積込み、シートで養生して運搬し、仮置場でシートを撤去して荷降ろしをしていた。

・被災者は、シート掛外し専用架台からダンプ荷台に移ろうとして、安全帯を親綱に掛けると動作と同時に荷台に移った時に、足を滑らし荷台後方から地面に落下した。

・作業手順書では安全帯を親綱に掛けてからダンプ荷台に移る手順であった。

【事故発生原因】

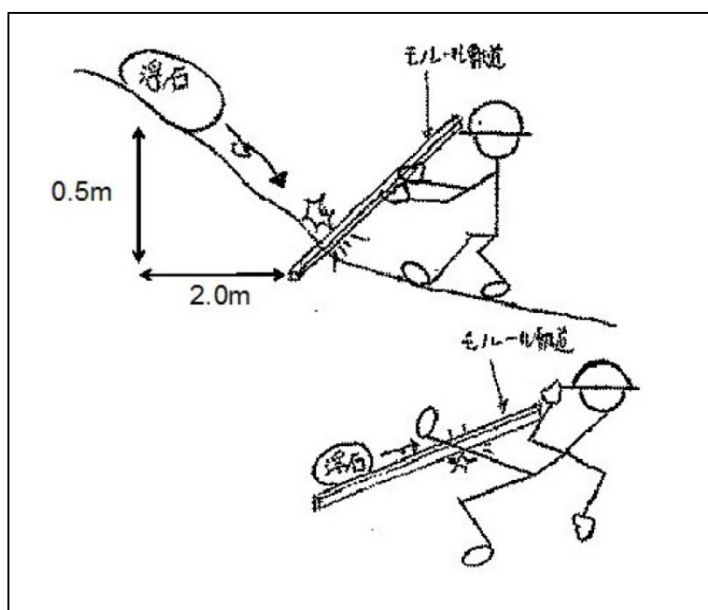
・作業手順書の周知・徹底不足など

【事故防止のポイント】

・作業手順書通りに作業を行うよう周知・徹底を行う。など

発生日時	平成 25 年 10 月 4 日 (金) 11 時 55 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所 地質調査業務					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	49	ボーリング助手	右足スネ開放骨折(全治6週間)		
事故概要	斜面においてモノレール架設作業中、斜面上部の浮き石(φ70cm大)が転がり、モノレール部材に衝突。その際、モノレール部材と地面の間に作業員の右足が挟まれ、負傷したもの。					
	労働災害ーその他労働災害					

事故発生状況



・地質調査ボーリングが完了し、機材を搬出する作業を行うために、台風で損壊した部分のモノレールを撤去し再設置するため、新しいモノレール部材を運搬中であった。

・被災者は交換用モノレールを両手で保持していた。その際、被災者の左側にあったφ70cm大の浮石が崩落した。

・浮石は被災者が持っていたモノレール部材左側に衝突し、その勢いで被災者が転倒。浮石は、モノレール部材左端をヒンジとして作用し、モノレールに沿って落下した。

・浮石衝突の重みでモノレールのラック歯が被災者の右足スネに強く押し付けられ、その結果、右足スネ上部に開放骨折を負った。

【事故発生原因】

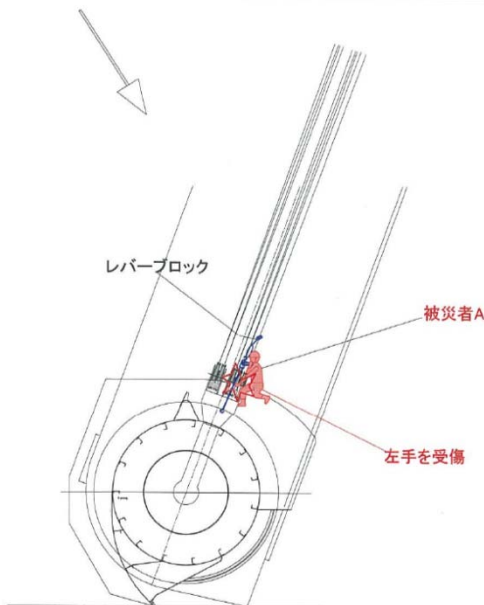
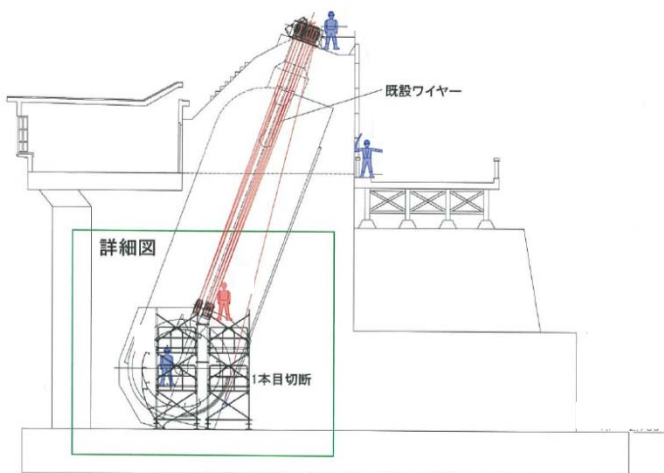
・降雨後の浮き石の点検が不十分であった。
など

【事故防止のポイント】

・降雨後など、斜面の浮き石の挙動が不安定になると予想される時は作業前に点検を行い、落下の恐れがある土石などを除去する。
など

発生日時	平成 25 年 11 月 18 日 (月)				9 時 50 分	天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	33	鉄工	左手圧挫創、左手第2・3・4・5末節骨折、左手第4・5中手骨骨折			
事故概要	ワイヤーロープを撤去する段取りの中、緩んだレバブロックを緊張させた際、左手でワイヤーロープをつかんでいたためワイヤーロープが動いた時にロープと一緒に滑車に左手を巻き込まれ負傷したもの。 労働災害一部材の加工作業等により自らを負傷						

事故発生状況



・ワイヤーロープを撤去する段取りの中、緩んだレバブロックを緊張させた際、左手でワイヤーロープをつかんでいたためワイヤーロープが動いた時、ロープと一緒に滑車に左手を巻き込まれた。

・レバブロックを緊張させたことで、レバブロックで固定していたワイヤーロープが動き、そのワイヤーロープと繋がっていた左手で掴んでいるワイヤーロープも連動して動き、ロープと一緒に滑車に左手を巻き込まれた。

【事故発生原因】

- ・作業手順上、足場は4段の計画だったが、3段の足場しか組み立てられず、ブラケットからゲートをよじ登って、ゲート上で作業を行っていた。
- ・作業場所周辺の手摺がなく、作業員がワイヤーロープを手掛として握ってしまった。 など



(再現用に作成した足場)



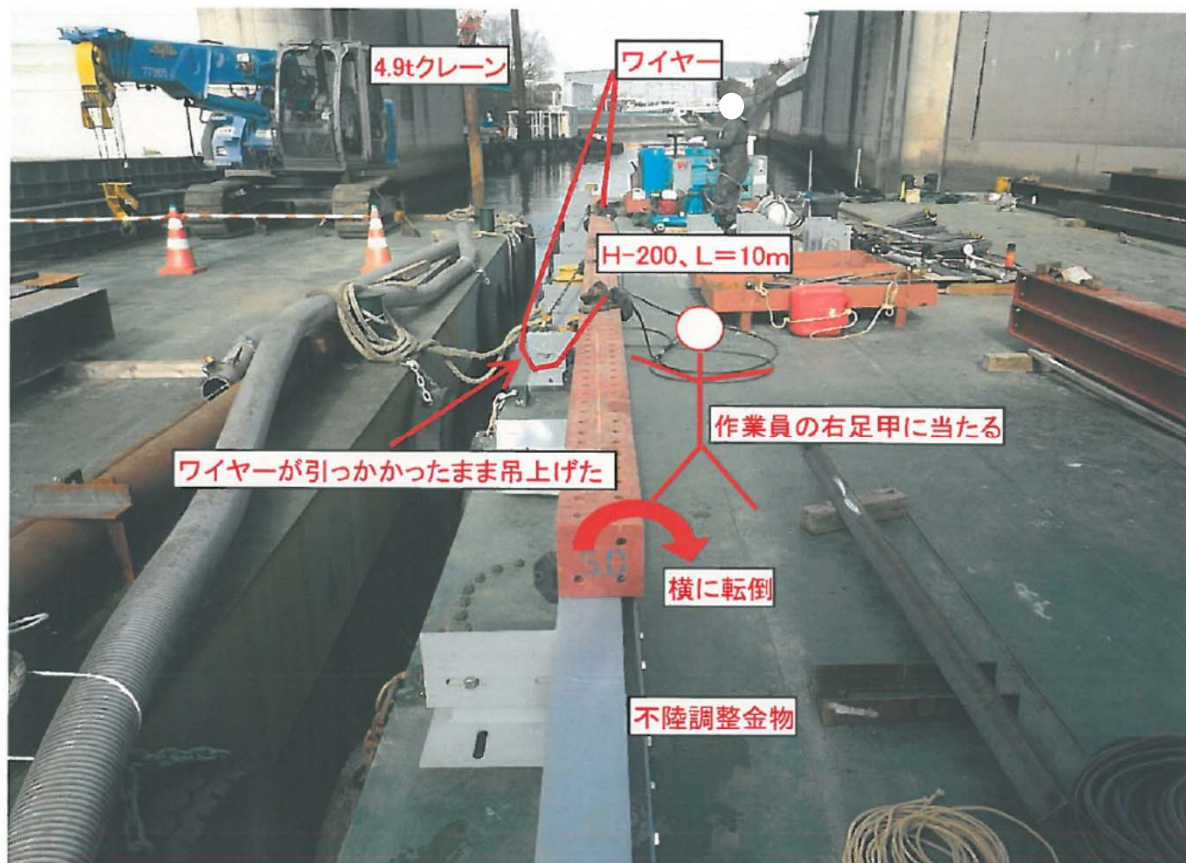
(事故発生時の足場)

【事故防止のポイント】

- ・現場にあった作業手順書を作成し、作業員に周知徹底を行う。 など

発生日時	平成 25 年 12 月 17 日 (火) 10 時 40 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	20	とび工	右第3中足骨骨折(全治3週間)		
事故概要	4. 9tクレーンで戸当たり鋼材を吊り上げようとした際、玉掛けワイヤーが鋼材の角に引っかかり、横に転倒し作業員の足の甲にあたり負傷したもの。					
	労働災害－運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷					

事故発生状況



・4. 9tクレーンで戸当たり鋼材を吊り上げようとした際、玉掛けワイヤーが鋼材の角に引っかかっていることに気づかず、そのまま荷上げ(地切り)を行い、鋼材が横に転倒、作業員の足の甲に当たった。

・被災者は玉掛け責任者であったが、荷に近接した場所で地切り作業(並行に吊り上げることが可能か確認)を行っており、吊り上げ合図も行っていた。(当時、合図者は別の作業を実施しており、被災者も荷上げの際に退避していなかった。)

【事故発生原因】

・クレーン作業における作業手順、役割分担等の周知徹底不足
など

【事故防止のポイント】

・作業手順書の周知徹底
など

別紙

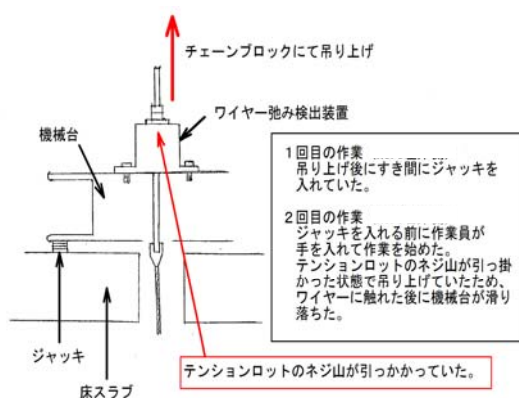
発生日時	平成 26 年 1 月 18 日 (土) 14 時 0 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所 機械設備工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	46	鳶工	左手挫創、左手首・指骨折		
事故概要	排水樋管開閉装置更新のため、旧開閉装置の撤去作業を実施していたところ、吊り上げた機械台(2t)が200mmの高さから落下し、機械台とコンクリート床面との間に手を挟まれ負傷したものの。 労働災害一運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷					

事故発生状況



・ゲート機械台の解体作業中、ゲートワイヤー(長さ1m位)を切断するため、作業員がチェーンブロック(2t)でワイヤー緩み検出装置を吊り、機械台を200mm程度浮かせてジャッキを隙間にいれようと、ジャッキを取りに行った。

・その間に、作業員(被災者)がジャッキを入れる前に機械台とコンクリートの間に手を入れて、ワイヤーを引っ張り出そうとした時、機械台が滑り落ち、左手を挟まれた。



【事故発生原因】

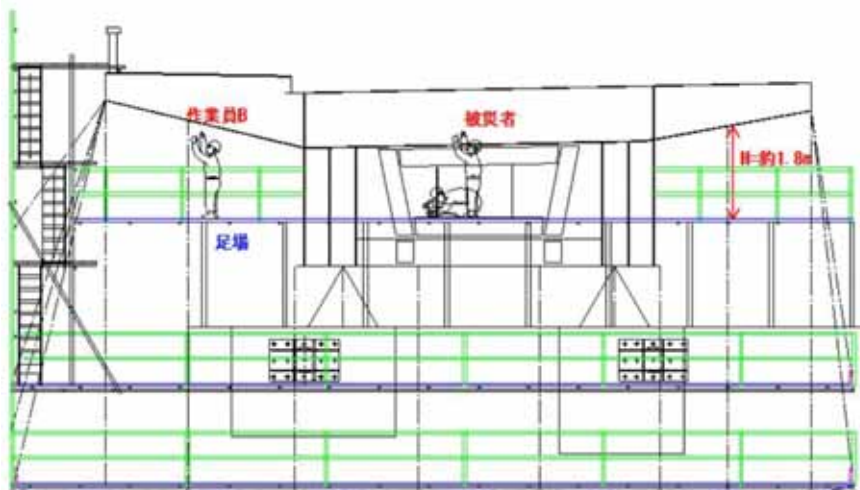
・ジャッキを入れて安定を確認後に機械台下での作業を開始する作業手順となっていたが、ジャッキを入れる前に機械台下の作業を開始した。
など

【事故防止のポイント】

・作業手順の周知・徹底を行う。
など

発生日時	平成 26 年 2 月 19 日 (水) 15 時 50 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	56	作業員	死亡		
事故概要	橋梁の伸縮装置非排水化工事の工事中において、既設非排水材の撤去作業を行っていた際、既設非排水材が落下し、作業員1名が下敷きとなり、死亡したものの。					
	労働災害 - 運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷					

事故発生状況



・橋脚の足場上において、作業員2人 (A・B) で伸縮装置非排水化のため、既設非排水材の撤去作業を行っていた。

・止水ゴム撤去後、施工箇所両端に作業員が別れ、中央部に向かい支持金具の撤去を始めた。

・中央部付近の最後の支持金具が撤去できず、作業員Bが張出部へ道具を取りに移動したところ、作業員Aが前屈の状態で既設弾性シール材の下敷きとなり死亡した。

【事故発生原因】(詳細調査中)

・既設非排水材(重量物)の撤去の作業手順が詳細に検討されていなかった。 など

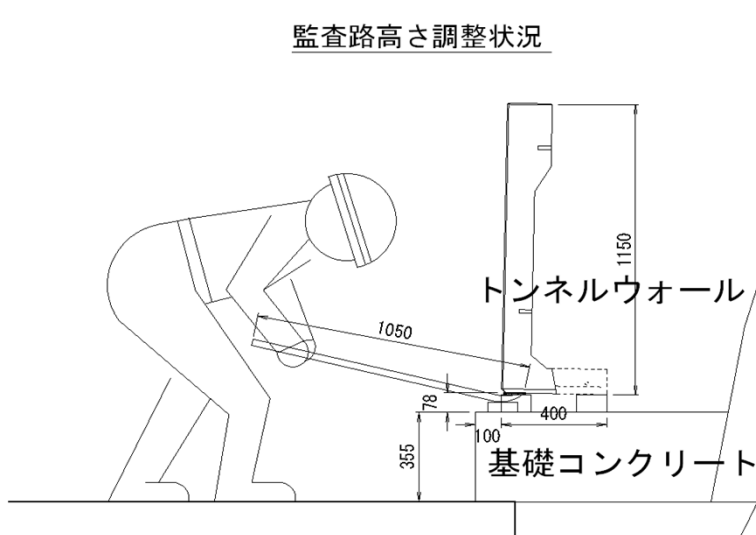
【事故防止のポイント】

・詳細な作業手順を作成し、周知徹底を行う。 など

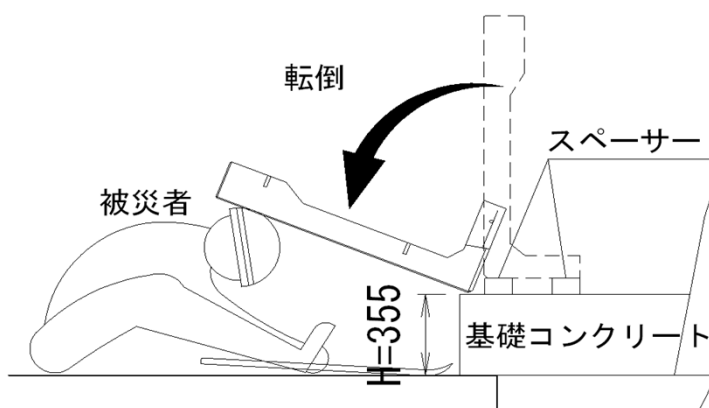
発生日時	平成 26 年 3 月 1 日 (土) 22 時 0 分					天候	晴
工事情報	道路系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	男	49	土工	死亡			
事故概要	トンネル監査路のL型擁壁の高さ調整を行っている際、L型擁壁が作業員側に倒れてきて、作業員1名が挟まれ、死亡したものの。						
	労働災害一運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷						

事故発生状況

監査路高さ調整状況



被災状況



・トンネル坑内の監査路用L型擁壁(トンネルウォール)設置作業を実施していた。

・あらかじめ設置してあったスペーサーの上に、クローラクレーンを用いてトンネルウォールを設置した後、クレーン吊り金具を外し、ボールを用いてレベルの最終調整を行っていた。

・その際、トンネルウォールが被災者側に倒れ、被災者が下敷きとなり、死亡した。

【事故発生原因】

・詳細な作業手順が検討されていなかった。
など

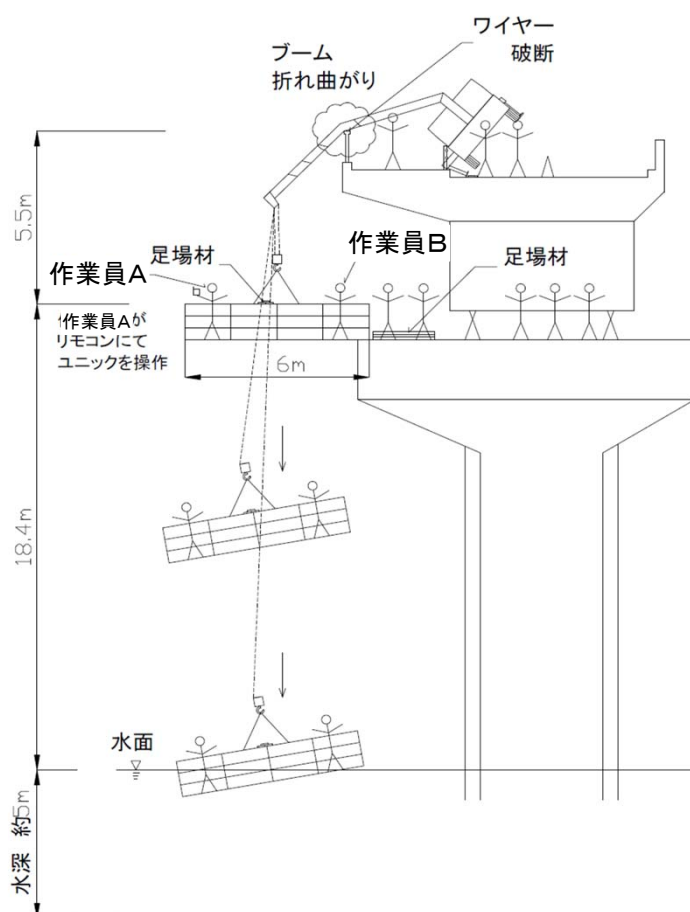
【事故防止のポイント】

・施工前に現場をよく確認のうえ、現場条件にあった詳細な施工計画を作成し、作業員に周知・徹底を行う。
など

別紙

発生日時	平成 26 年 3 月 17 日 (月) 13 時 40 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	31	作業員	死亡		
事故概要	橋梁上で、ユニック車にてゴンドラを吊り下げて、吊り足場を解体・運搬中に、車道にあったユニック車が歩道側に倒れ、ブームが高欄にあたり、その衝撃でワイヤーが破断し、作業員がゴンドラと一緒に川に転落、死亡したもの。					
	労働災害－その他労働災害					

事故発生状況



・橋梁上において、ユニック車にてゴンドラを吊り下げて、吊り足場を解体・運搬作業中に、ゴンドラ内で作業していた作業員2名のうち、作業員Aがリモコンでユニック車を操作していたところ、橋脚にかかっていたゴンドラ端部が離れた際にゴンドラが揺れて、車道側にあったユニック車が歩道側に倒れ、ブームが高欄に当たり、その衝撃で2本吊りワイヤーの1本が破断し、作業員2名がゴンドラと一緒に川に転落した。

・転落した作業員のうち、1名(B)は自力で川から這い上がり救助されたが、他の1名(A)が行方不明となり、後に遺体が発見された。



【事故発生原因】(詳細調査中)

・クレーンの使用方法が適切でなかった。
など

【事故防止のポイント】

・現場条件にあった適切な施工計画を作成し、作業員に周知・徹底を行う。
など